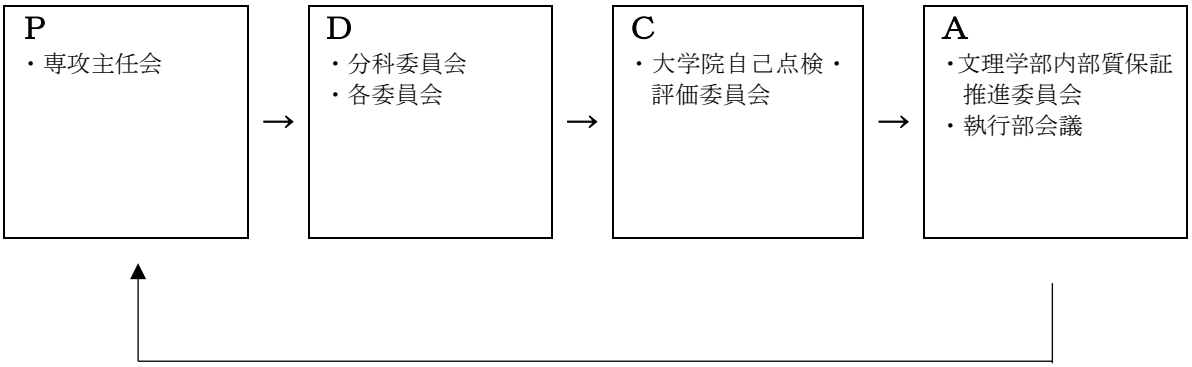
令和７年度全学自己点検・評価報告書

学部等名　　大学院文学研究科

基準２ 内部質保証

１　内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価し，改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名（例：教授会，自己点検・評価委員会，内部質保証推進委員会等）を明記してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③
内部質保証システムの有効性及び適切性について定期的に点検・評価を行い，改善・向上に向けた取組を行っていること。
＜評価の視点＞
・内部質保証システムの整備や機能の状況を定期的に点検・評価し，その結果に基づき，教育の質を保証する仕組みとしてより有効に機能できるよう改善・向上に取り組んでいるか。

⑪　学部等における内部質保証システムが有効に機能しているか，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

文理学部内部質保証推進委員会を開催し，内部質保証を支える基盤となる４委員会（大学院自己点検・評価委員会，大学院ＳＤ委員会，大学院ＦＤ委員会，大学院教学ＩＲ推進委員会）の委員会での報告・審議事項等を点検・評価し，問題点を明確にしている。これらを基に４委員会に対し，文理学部内部質保証推進委員会から指示を与えている。また，その他の委員会についても，研究科の抱える諸問題の検討・解決を諮問事項として落とし込み全学部的に対応している。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

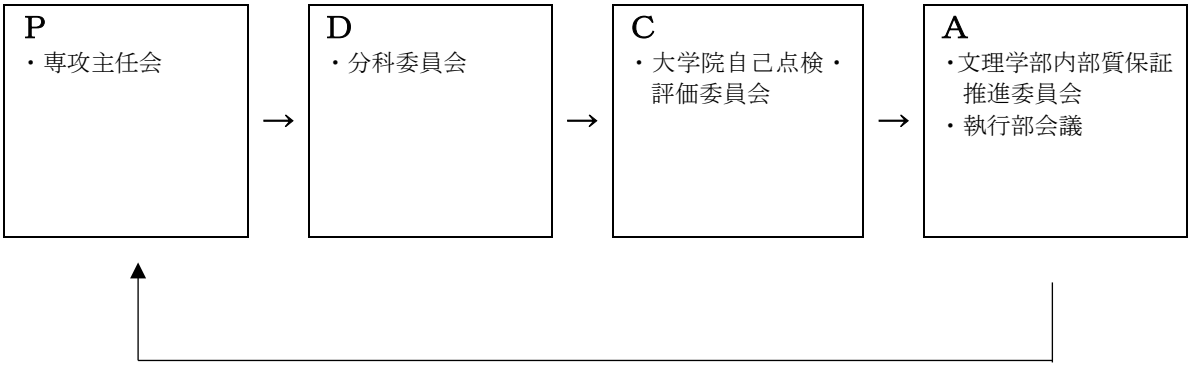
【提言（改善課題）】

内部質保証体制は構築しているものの，博士前期課程・博士後期課程など課程別の点検・評価については確認できず，改善策も適切に分化されていることは確認できなかった。また，改善実施状況として定期的な点検・評価は行っていることは確認できたものの，令和６年度大学評価（認証評価）結果において付された提言のとおり，三つの方針についても適切に点検・評価しているとはいえないことから，適切に点検・評価するよう改善が求められる。

改善課題の「三つの方針についても適切に点検・評価」については，各専攻において点検・評価を行い，分科委員会において情報共有された。次年度以降も定期的な点検を実施していく予定である。

基準３ 教育研究組織

１　教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育研究組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教育研究組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑫　学問の動向や社会的要請等に対応すべく，学科や研究所の新設，学科の改組等，教育研究組織の見直しについて，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

教育面については，月に１回又は２回開催している専攻主任会において，研究科専攻組織の適切性について必要に応じて点検・評価を行っている。諸問題が生じた際は，学部執行部と連携し対応に当たっている。また，文理学部内部質保証推進委員会から必要に応じて大学院教学ＩＲ推進委員会に対し，専攻主任会と連携し教学ＩＲを適切に機能させている。

研究面については，文理学部では研究委員会だけでなく人文科学研究所・自然科学研究所・情報科学研究所にそれぞれ運営委員会が設置されており，研究委員会と付置研究所運営委員会が連携し審議している。また，毎年度末には全教員を対象としたモニタリング調査を実施しているほか，随時，研究委員会委員長（研究担当），研究委員会副委員長及び研究事務課で点検及び一定の評価を行っている。

なお，研究科や研究所の新設，専攻の改組等については，執行部で検討されており，より多角的な視点で専攻や研究所の新設，専攻の改組等について意見集約に努める段階である。

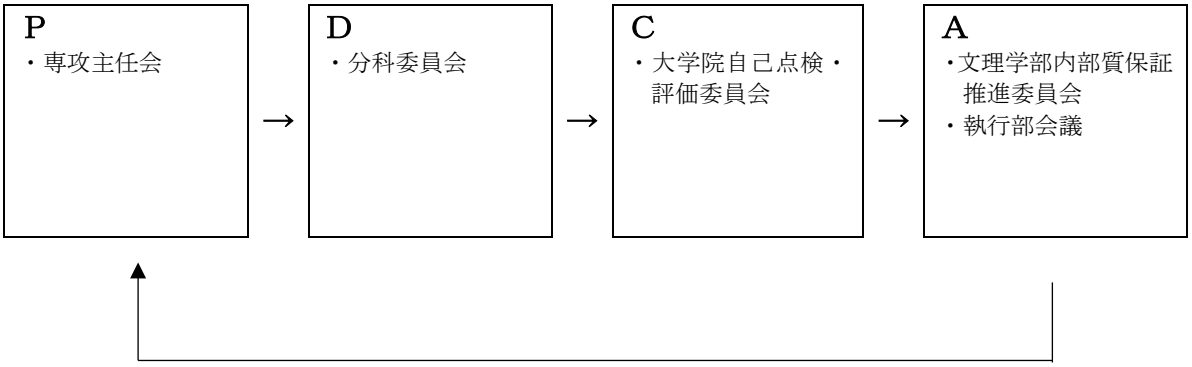
３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学

院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準４ 教育・学習

１　教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目⑥

教育課程及びその内容，教育方法について定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等を明確にしているか。**
- **課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況，資格試験の取得状況，進路状況等の情報を活用するなど，適切な情報に基づいているか。**
- **自己点検・評価の結果を活用し，教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。**

㊶　教育課程及びその内容，教育方法に関する自己点検・評価の基準，体制，方法，プロセス，周期等について記述してください。

専攻主任会において，大学教育を取り巻く環境の変化等により必要に応じ，教育課程の改善・見直しを行っている。

現在，今後の教育課程の改善・見直しに向けて，情報を収集している段階である。今後，得られた情報を大学院教学ＩＲ推進委員会や大学院自己点検・評価委員会等と共有し，改善・見直しに向けて活用していく予定である。

㊸　教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上に当たり，自己点検・評価の結果をどのように活用しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院独自のＰＤＣＡサイクル確立に向けて，令和６年度後期に，大学院ＦＤ委員会，大学院ＳＤ委員会，大学院教学ＩＲ推進委員会及び大学院自己点検・評価委員会を設置した。

今後，大学院自己点検・評価の評価結果を共有し，専攻主任会において教育課程及びその内容，教育方法の改善・向上を図りたい。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「国文学専攻の教育課程の編成・実施方針について，博士前期課程及び博士後期課程で１つの方針を設定しているため，学位課程ごとにこれを定めるよう是正されたい」と提言（是正勧告）が付されているため，是正されたい。

【提言（改善課題）】

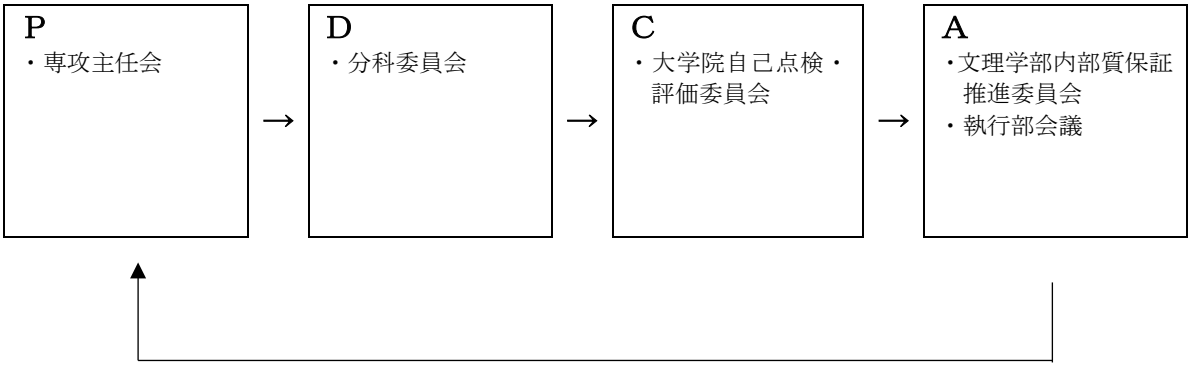
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「教育課程の編成・実施方針について，文学研究科国文学専攻博士後期課程，同社会学専攻社会学コース博士後期課程，同社会学専攻社会福祉学コース博士後期課程では，編成に関する基本的な考え方を，文学研究科社会学専攻社会福祉学コース博士前期課程，同心理学専攻博士後期課程では，実施に関する基本的な考え方をそれぞれ示していない」と提言が付されているため，改善が求められる。

いずれも，令和７年度前学期に開催された文学・理工学研究科専攻主任会において情報を共有し，該当する専攻についてはもちろんのこと，該当しない専攻においても再度確認し，必要に応じて改定をした。

また，学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に関して，学術の学位に関する方針が記載されていないことから，現在改定に向けて準備を進めているところである。

基準５ 学生の受け入れ

１　学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊾　学生の受け入れに関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

大学院文学・理工学研究科専攻主任会において，学生の受け入れに係る事項について改善・見直しを行っている。

自己点検・評価結果及び全学自己点検・評価結果において，改善・向上すべき事項がある場合は速やかに関連委員会と共有し，改善・向上に向けて検討を進めている。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（是正勧告）】

令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「博士前期課程及び博士後期課程で１つの方針を設定している専攻があるため，学位課程ごとにこれを定めるよう是正されたい。」との提言（是正勧告）が付されているため，是正されたい。

【提言（改善課題）】

博士後期課程の収容定員に対する在籍学生数比率が 0.30 と低く，大学基準協会が定める「基礎要件に係る評価の指針（大学）」に抵触しているため，改善が求められる。

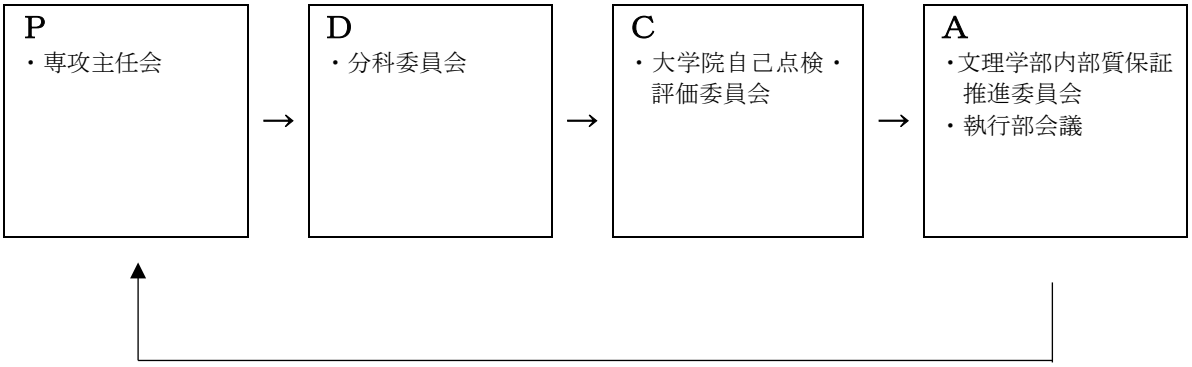
大学院文学・理工学研究科分科委員会において，広報内容や入試種類の見直しについて検討を行い，研究科の教育研究の特色や研究成果を分かりやすく発信できる体制の構築を目指す。具体的には，既存の学内選考制度及び大学院科目の早期履修制度について，学生及び学部教員への周知方法を見直し，制度の活用促進を図る。

さらに，社会人入試については，他大学の取組事例等も参考にしながら，受験しやすい制度設計や募集方法の在り方について検討を行い，中長期的な視点で段階的に改善を進めていく。

専攻主任会の企画立案を分科委員会が実行し，大学院自己点検・評価委員会が点検・評価し，それを受けて文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討する。

基準６ 教員・教員組織

１　教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑱　教員組織に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

法人が定める「大学等の教員配置計画策定に係る基本方針について」に基づき，毎年度，学部独自に各職位の人数・年齢及び性別構成等を含む多様性に考慮し，教員配置計画（学科・専攻）を作成し，執行部会議において，将来にわたり大学院設置基準等を下回ることのないよう，かつ人件費を抑制することの両立を目指し人事計画を定めている。なお，その際に，計画どおりに人事計画が進行しないことも発生するが，その状況が複数年継続することのないよう，執行部会議にておいて確認を行っている。また，現在法人において検討されている特別教授制度（仮称）及び基幹教員制度の動向に注視し取り組んでいる。

なお，文理学部においては，各専門領域における 18 学科を設置しているが，絶えず変化と改革を促すことが必要であることから，学科に属さない総合文化研究室を設置し，教員を目指す学生のための支援や留学生・留学希望者・外国語学習者への支援のため各センター（教職センター，グローバル教育研究センター）に専任教員を配置するなどの取組を行っている。

令和７年度においては，組織のスリム化及び教員の負担減のため，国際交流委員会の機能をグローバル教育研究センターに統合できないか検討を行うなど，可能な部分から改善・向上を行っている。

大学院自己点検・評価委員会が令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成できているかの視点で点検・評価し，それを受けて文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

3　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

【提言（改善課題）】

特定の教員に過度な授業負担が生じないようにするための具体的な方策や基準が示されておらず，「特になし」としていることは，教育研究活動を安定的かつ十全に展開するための教員組織の適正管理という観点から課題であり，改善が求められる。授業負担の偏在は，教育の質や研究活動への影響，更には教員の心身の健康にも直結するため，組織的な配慮と制度的な仕組みが不可欠である。今後は，授業担当数や業務内容の実態を把握した上で，負担の上限・下限を定めた基準や調整ルールを策定し，定期的に点検・評価を行う体制を整えることが求められる。

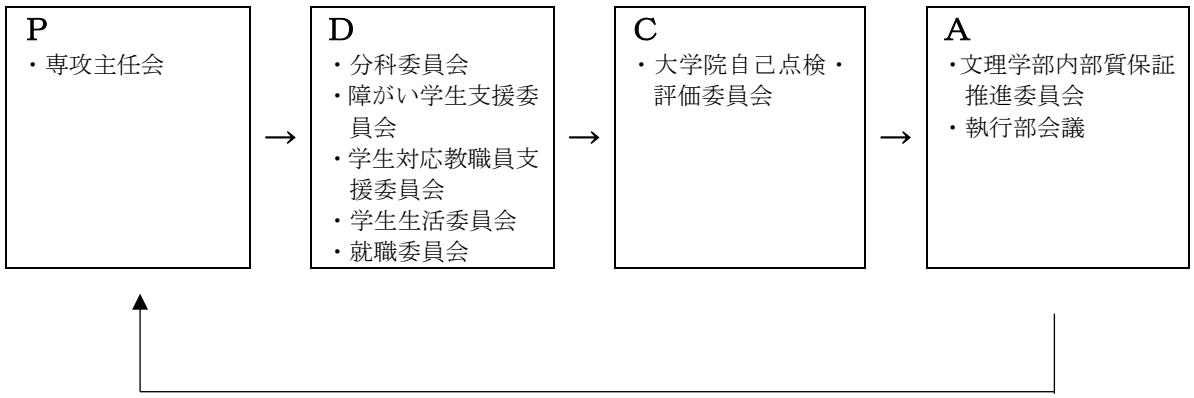
令和６年度大学評価（認証評価）結果において，「大学院固有のＦＤ活動を行っていないため，適切にこれを実施するよう改善が求められる」と提言が付されているため，改善が求められる。

改善課題である「授業負担の偏在への方策」は，学校法人基礎調査での教員別の授業持ちコマ数一覧を，労務管理している部署に共有することにより「見える化」に努めた。また，全教員対象のストレスチェックの職位毎の結果を安全衛生委員会で情報共有した。今後は，参考になるデータを収集しながら，授業持ちコマ数やストレスチェック結果のデータと実際の教員の負担にどれくらい相関があるのかなど，慎重に分析を行っていく予定である。

また，「大学院固有のＦＤ活動」について，法人本部主導で推進している状況のため，分科委員会が本部と連携しながら適切に対応していく予定である。

基準７ 学生支援

１　学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

学生支援に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **学生支援に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，学生支援に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

㊽　学生支援に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

文理学部長の諮問機関として学生生活委員会を設置し，学生生活及び支援に関する事項について協議している。学生生活委員会では，学部行事・サークル活動及び奨学金等全般について協議等を行っている。また，前学期・後学期に１回ずつ学生生活に関する講演会を実施し，学生全体への注意喚起を行っている。

合理的配慮を求める学生からの申出は，「学生支援室窓口」が窓口となっている。

コーディネーターが調整役として，学生のニーズを聞き取り，必要に応じて臨床心理士によるカウンセラーに意見を求め，申出のあった学生の支援者を集めての関係者カンファレンスの開催，「障がい学生支援委員会」で審議の後，合理的配慮の提供が開始される。

合理的配慮の実施状況は学生にモニタリングを行い，その結果適切に配慮されていない場合は「障がい学生支援委員会」に報告し，対応及び調整が行われる仕組みを確立している。

また，合理的配慮を実施した教職員及び関係者にもモニタリングを行っている。

令和６年度の課題であった後学期の合理的配慮の決定（支援開始）のずれ込みは，後学期授業が始まる前（夏季休業期間）から受け付けができるように変更し，後学期授業開始第１回目から支援が開始できるように改善を行った。

また，全学科の教員が委員に属する学生生活委員会で，その他の学生支援の関係する委員会の課題等を集約できないか検討をしている。

大学院自己点検・評価委員会が，令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成

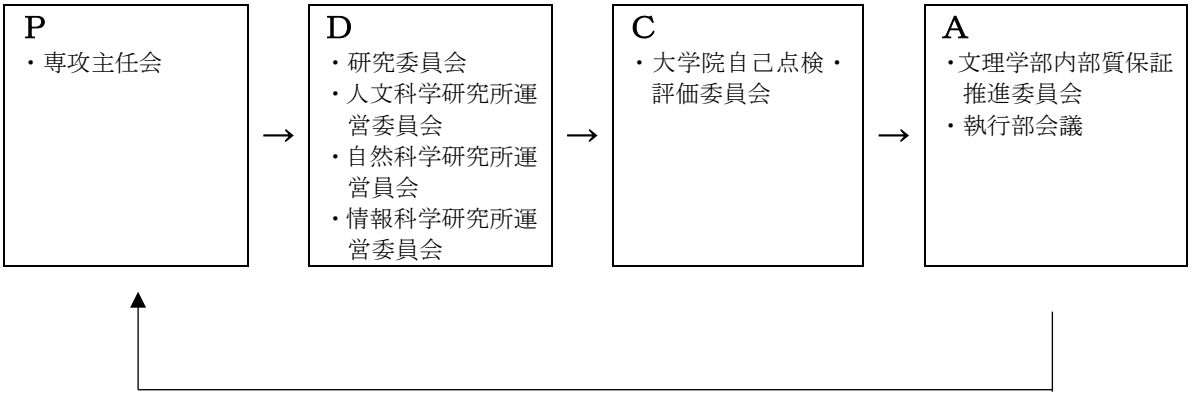
できているかの視点で点検・評価し，それを受けて文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準８ 教育研究等環境

１　研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目④

教育研究等環境に関わる状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **研究等環境に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，研究等環境に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑭　研究等環境に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

文理学部は，研究委員会を設置し，「研究支援・促進体制の整備充実並びに高度化その他学術研究に関する重要事項を審議する」ことが規定の任務の一つとされている。

また，文理学部は，人文科学研究所・自然科学研究所・情報科学研究所の三つの研究所に運営委員会を設置し，各運営委員会が事業計画や研究費の審議を行うことが既定の任務の一つとされている。

そのため，研究等環境に関わる事項は，研究委員会のみならず，三研究所の運営委員会においても発議され，審議される体制となっている。

これにより，文系学科と理系学科が併設される文理学部にあっては，各委員会がそれぞれの分野での問題点等を発議することによって，検討がなされ，改善を図っている。

令和７年度は，科学研究費助成事業の機関管理に関する改正を行った。これまで前任の研究機関で科研費の研究代表者であった研究者が，当該研究の研究期間の途中で本学の研究員等となった場合，日本大学大学院文学研究科，総合基礎科学研究科及び理工学研究科地理学専攻を修了又は満期退学した者でなくても当該科研費の移管及び本学部在職期間における機関管理をできるように改正した。これにより，本学部の研究活動を更に活性化させるとともに，優秀な若手研究者の確保及び育成できるよう改善している。

大学院自己点検・評価委員会が，令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成

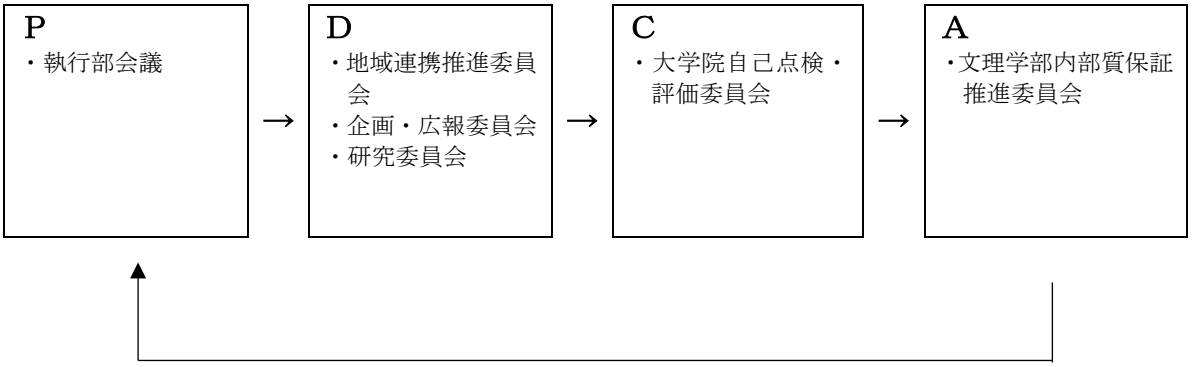
できているかの視点で点検・評価し，それを受けて文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし

基準９ 社会連携・社会貢献

１　社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，その結果を活用して改善・向上につなげていくサイクルに関して，以下のＰＤＣＡサイクル図に該当する組織名を明記してください。なお，事案により対応する組織名が異なる場合は，下記の図をコピー＆ペーストして，事案ごとにそれぞれ記載してください。



２　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，以下の設問に回答してください。

点検・評価項目②

社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し，改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- **社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し，当該事項における現状や成果が上がっている取組及び課題を適切に把握しているか。**
- **点検・評価の結果を活用して，社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み，効果的な取組へとつなげているか。**

⑯　社会連携・社会貢献に関わる事項について，どの組織が，どのように点検・評価（検討・検証）しているか記述してください。また，その結果，改善・向上を図った事例等について記述してください。

課題として，教職員が行っている様々な社会連携・社会貢献活動の情報集約する場がなかったため，その機能を果たすため地域連携推進委員会の諮問事項として落とし込みを行った。また，企画・広報委員会が，教職員から集まる活動成果を学部ホームページ等で発信し，アクセス数などから社会から需要に応えられているか確認している。

令和７年度は，地域の小中学生向けに，大学の教育研究活動の社会還元を目的とした「体験フェア～キッズチャレンジ～」を学園祭期間に初めて実施し，より積極的な社会貢献活動を行った。上記イベントのアンケート結果を学科主任会でも共有し，未参加の学科にも次年度以降参加を促し改善を予定している。様々な活動を学部執行部に十分に共有できていなかったので，本年度の事業が終了した段階で，会議上程し，情報共有及び活動への理解を促進して，ブラッシュアップしていく。

また，次年度は学部ホームページ更新時期のため，教員のメディア出演情報・プレスリリースなど更新頻度が少なく他の情報に埋もれがちな社会連携・社会貢献活動の好事例を Top ページで発信できるよう改善を予定している。

大学院自己点検・評価委員会が，令和７年度自己点検・評価の基準や前年度の課題等を達成できているかの視点で点検・評価し，それを受けて文理学部内部質保証推進委員会が次年度の改善を検討している。令和８年度は，ＰＤＣＡサイクルをより回せるように，年度当初に役割を周知徹底する。

３　上記１のＰＤＣＡサイクル図に基づき，【添付書類⑤】令和６年度全学自己点検・評価結果に対する検証結果で付された当該基準における提言（是正勧告，改善課題）にどのように取り組むかを記述してください。提言（是正勧告，改善課題）が付されている学部，通信教育部，大学院研究科及び短期大学部（各校舎）のみ御回答ください。

なし